# キャプション評価大会
# 開催趣旨説明

令和３年１０月１８日（月）

一般社団法人　全国個室ユニット型施設推進協議会

0

## ユニット型施設を取り巻く現状

ユニット型施設には、報酬改定を経ての客観的な状況、更に身近な状況にも質の面で課題がある。
特に環境面についてはコロナでの打撃もあり、どこの施設も苦慮しているのではないか。

（客観的な状況）

・LIFEは導入されたが、ユニットケアの優位性は評価されていない。

・むしろ多床室にも個別ケアを促す方向

・このままではユニットケアが埋没する恐れも。。。

・一方で、15人定員ユニットが認められ、効率化へ舵が切られた。

・テクノロジーの活用による人員削減策は出されたものの質の向上策は無し。

（身近な状況）

・コロナで来客もなく刺激がなくなった。

・毎日がケの日常でハレの日がなくなった。

・いつの間にか環境（設え）への意識が低下

⇒　質が落ちてしまっている。。。

質の向上策が絶対に必要な状況!!

**ではどうするか**

1

1

## キャプション評価法とはどういうものか（厚労省の評価）①

・ユニットリーダー研修では、PEAPを参考とし、キャプション評価法を用いてPDCAサイクルによる環境づくりが有効として推奨している。（厚労省も評価）

### 7.3.1 物的資源のマネジメント（1/8）

- 物的資源のマネジメントには、建物や設備環境の整備(環境づくり)と物品の管理があります。
- 職員は施設や設備の入居者であり、保守点検を担う立場にもあります。
- すべての入居者にとって、安全、安楽、効率的であることが求められる。

環境づくりの手法として
PEAP、キャプション評価法
使ったPDCAを紹介

**物的資源のマネジメントの全体像**

| | | |
|---|---|---|
| 環境づくり | 施設・環境整備 | • ①適切な住環境の確保、②安全性(転倒・転落防止、感染対策、災害対策等)、③人権尊重、④社会性への配慮、⑤心身機能の低下への配慮、などが重要な視点。<br>• 職員の労働環境としての整備も重要。職員の腰痛予防等の健康管理や入居者への効果的効率的なケア提供にもつながる工夫が求められる。 |
| | ユニットの環境づくり | • 「認知症高齢者への環境支援指針」（PEAP：Professional Environmental Assessment Protocol）が参考になる。<br>• 住環境を整えることで、症状を緩和したり心身機能の低下を補い、残された能力を発揮して豊かに暮らし続けることができるようになる。<br>• PDCAサイクルを意識した環境づくりも重要。 |
| 物品の管理 | | • 必要な時に必要なものが、適切な状態で必要な数量あることが基本であり、数量の管理と信頼性の管理を行うことが目的。<br>• 物品の供給に関しては、物品の購入、保管・管理、搬送、処理等の管理が必要。 |

2

2020年ユニットリーダー研修用テキスト（厚労省作成）より抜粋、タイトル等一部改変

2

## キャプション評価法とはどういうものか（厚労省の評価）②

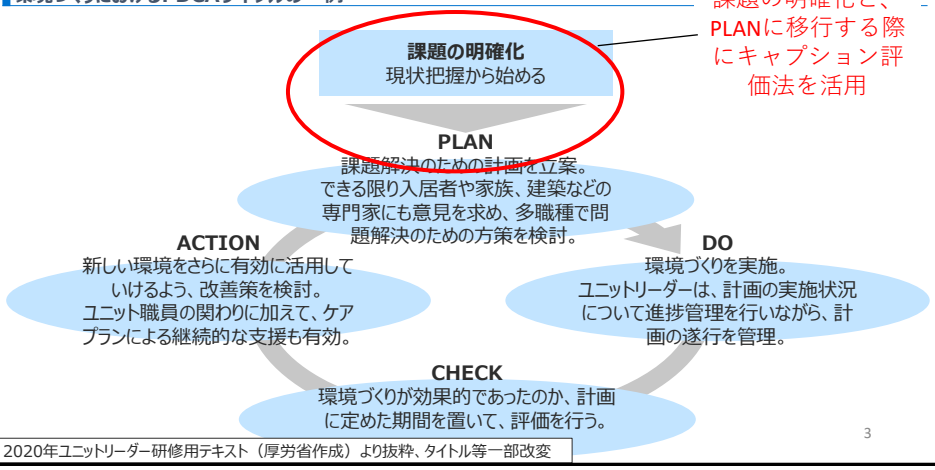
・環境は徐々に変化する。毎日接している者は、変化（課題）にはなかなか気づきにくい。
・課題が分かってもPDCAを動かす手法が定まっていない。なかなか動き始めない。

### 7.3.1 物的資源のマネジメント（4/8）

- 環境づくりもPDCAサイクルで進めていくことができます。

**環境づくりにおけるPDCAサイクルの一例**

課題の明確化と、
PLANに移行する際
にキャプション評
価法を活用




3

2020年ユニットリーダー研修用テキスト（厚労省作成）より抜粋、タイトル等一部改変

3

## キャプション評価法とはどういうものか（厚労省の評価）③

### 7.3.1 物的資源のマネジメント（5/8）

- 環境の課題の明確化のためにはキャプション評価法が有効です。

**課題の明確化の手法　キャプション評価法**

- 気になる環境を写真に撮り、その写真にキャプション（説明文）をつける。
- そうすることで、日常的になっている風景を切り取って評価し、課題を発見することができるようになる。
- この作業は一人で実施するのではなく、多職種による複数人で確認し合ったほうが、多角的な検討ができる。

具体的には…

- 「良いと感じる場面」「悪いと感じる場面」を写真に撮り、その場所をなぜそのように感じたのかを写真に付随して記述していく。評価のコメントについては、漠然とした内容から徐々に掘り下げ、課題を導き出すことが重要。
- 例えば、悪いと感じる場面(写真1)について、最初は「広くてさみしい感じ」と直観によるイメージが記述され、その後、「照明が暗い」、「部屋が広すぎる」、「暗い色調の素材や家具が多い」といった原因の抽出を行い、課題を導き出す。また、良いと感じる場面(写真2)について、「入居者が外を見てくつろいでいる」と気づいた事実が記述され、その後、「一人でのんびりできている」、「角で落ち着くことができる」、「囲われている」といったように、徐々にその理由を探っていく。

写真1　照明が明るく大規模に感じる食堂

写真2　一人で過ごすことができる居場所



2020年ユニットリーダー研修用テキスト（厚労省作成）より抜粋、タイトル等一部改変

4

㊟児玉先生を中心とする研究者の方々が開発された様式

## キャプションカード

写真を貼付け

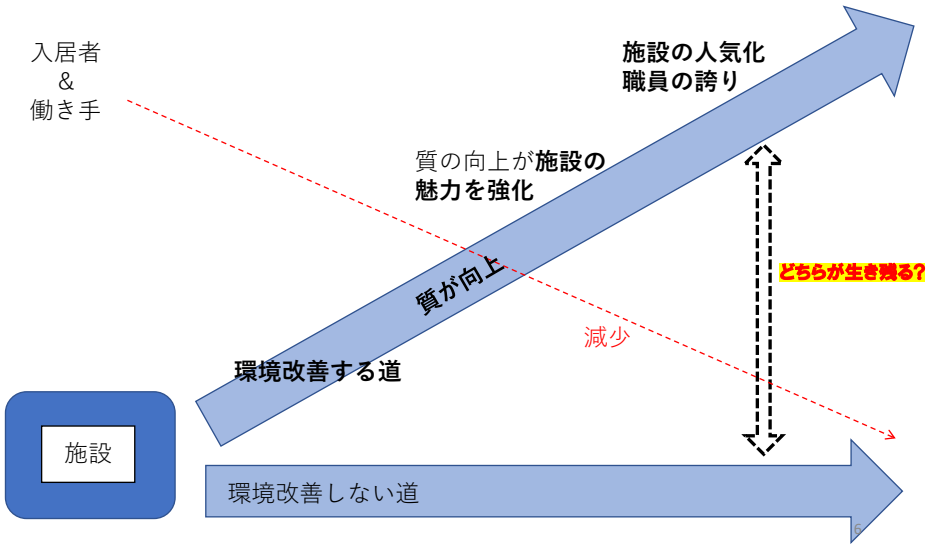
| PEAP | ○・×・!? | 参加者番号 |
|---|---|---|
| 1 見当識 | 日時 | No. |
| 2 機能 | | |
| | 場所 | |
| 3 刺激 | | |
| 4 安全 | 誰にとって:Aさん | |
| 5 継続性 | | |
| 6 選択 | ということについて | |
| 7 プライバシー | | |
| 8 ふれあい | | |
| 0 他 | と思った | |



5

## （参考）質の向上と施設経営の相関イメージ

基盤整備と制度改革により少子高齢化も乗り切る。その先はサービスの過剰状態となるのでは。。。
環境改善プログラムは施設が生き残る道。。。




6

全国個室ユニット型施設推進協議会　キャプション評価大会　20211018

# キャプションカードの活用で高齢者に優しい環境づくり

## 内容

1）環境を生かしたケア（環境支援）
2）キャプション評価の方法
3）キャプションカードで課題の整理・共有
4）キャプションカードをPEAPの視点で評価
5）キャプション評価法の利点

児玉桂子
日本社会事業大学名誉教授
ケアと環境会代表

0

Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.

0

# 環境支援の工夫を行う高齢者施設が増えている

1

頻繁に時間を訪ねる高齢者がいる→　時計を高齢者でも見える高さに移動

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.

1

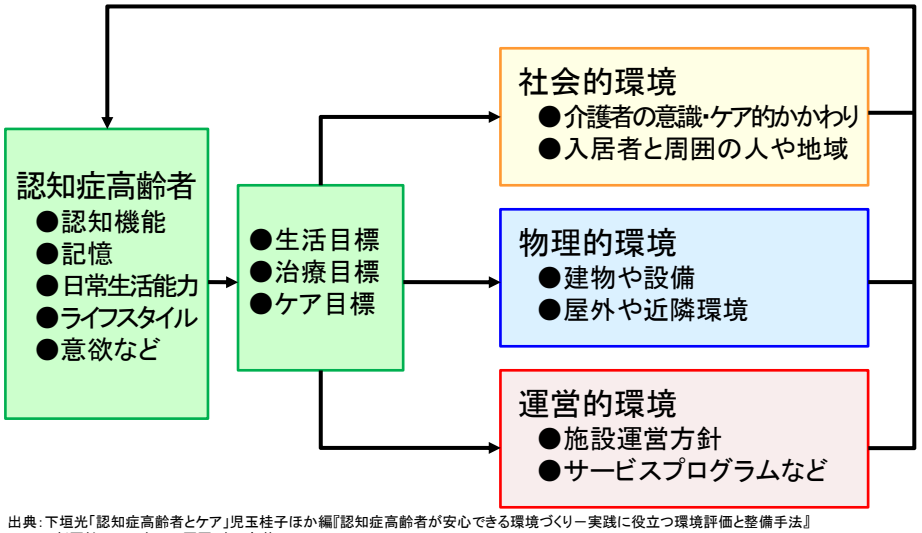
## 1．環境を活かしたケア（環境支援）の現状と動向

- ❑認知症ケアの現場では、居住環境への工夫がみられるようになってきたが、生活やケアに活かす視点が不足している
- ❑科学的根拠に基づく実践には、「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」が有効
- ❑環境はケアスタッフの手で変えることが可能であり、その効果は大きい
- ❑世界的潮流であるパーソン・センタード・ケアの実践にも、ケア環境の視点は欠かせない

Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.



## 認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラムは、施設環境の３要素に着目して、ケアや暮らしを変える取り組み



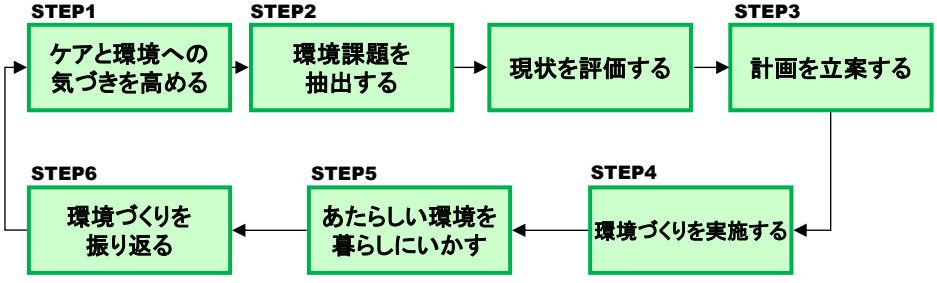

出典：下垣光「認知症高齢者とケア」児玉桂子ほか編『認知症高齢者が安心できる環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法』彰国社、2009年、14頁図2を一部修正



Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.

# 認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラムの特徴

- ６ステップの目標を確認して進めるPDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクル
- 利用者のニーズに基づき、参加型で進める
- 環境の3側面（社会的・物理的・運営的環境）に着目して、ケアや暮らしを変える取り組み
- 特別養護老人ホーム・グループホーム・デイサービス・在宅等で活用




Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.





# 参加者のコミュニケーションや思考を助ける豊富なツール

| | |
|---|---|
| ステップ1 | ケアと環境への気づきを高める<br>「認知症高齢者への環境支援指針」（PEAP日本版３）の学習を通じて、ケアと環境への視点や気づきを共有。 |
| ステップ2 | 環境への課題をとらえて、目標を定める<br>参加型手法である「キャプション評価法」を用いて施設環境の課題や場所を抽出して、環境づくりの目標を設定。 |
| ステップ3 | 環境支援の計画を立てる<br>「暮らし方シミュレーション・シート」を用いて理想の暮らし方やケアを描き、それを実現するために「環境支援アイディア・シート」を活用して、社会的・物理的・運営的環境について具体的な改善のアイディアを広く出す。 |
| ステップ4 | 環境支援を実施する<br>「実施条件の整理シート」を用いて、環境支援のアイディアを整理して、取り組みやすく効果があるものから実施。 |
| ステップ5 | 新たな環境を暮らしとケアに活かす<br>新たな環境を積極的に暮らしやケアプランに活用して、認知症のある高齢者の暮らしやケアを変える。 |
| ステップ6 | 環境支援を振り返る<br>「環境支援実践シート」により環境支援の取り組みを振り返り、効果や課題の整理。環境支援の効果を検証するために、「利用者の行動変化評価表」等を活用。それらに基づき、次の環境支援につなげる。 |

Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.

# 2．キャプション評価の方法

①カメラ・用紙を持ち、高齢者を取り巻く環境を点検

②
- いいな（良い、好きetc.）と思う　（＝ ○）
- いやだな（悪い、嫌いetc.）と思う（＝ ×）
- 何か気になる（その他）　（＝ !?）

ような空間・場面・部分などがあったら、
その**写真を撮る**

③　写真のキャプションを記入する
- 【 ○・×・他 】を選択式で記入する
- 【 何のどのようなこと 】に気づいて
  それを【 どう感じているのか 】を記す

④　写真とキャプションを１枚のカードにまとめる


Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.



# □キャプションの書き方

| PEAP | | |
|---|---|---|
| 1 見当識 | ○・⊗・!? | 参加者番号 7 |
| 2 機能 | 日時 2016/4/18 15:00 | No. 12 |
| 3 刺激 | 場所 居室 | |
| 4 安全 | Aさんにとって | |
| 5 継続性 | 壁も天井も真白い | |
| 6 選択 | ということについて | |
| 7 プライバシー | 病室のようで落ち着かない | |
| 8 ふれあい | | |
| 0 他 | と思った | |

**1.どれかを選ぶ**
○：よい、好きなど
×：悪い、嫌いなど
!?：どちらでもないが、何か気になる

2.参加者番号を記入

3.撮った順に番号をふる

4.撮影日時と場所を記す

5.Aさんの立場で評価

6.『何の』・『どのようなこと』について気になったかを記す　（客観的な事実）

7.上記の点に対して、Aさんが『どう感じているか』を記す　（個人的な評価）

8.PEAPのどの次元に該当するか

写真に写らないこと（音・におい・過去の出来事など）や、屋外のことなど、何でもOK


Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.

**キャプションカードで、環境課題の整理・共有**

**キャプションカードをPEAPの視点で評価**

Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.



## 3.　キャプションカードで課題の整理・共有

❑作業しながら話し合う
- ◆コミュニケーションツール
- ◆5･6人の少人数グループで
- ◆たくさんのカードが集まる

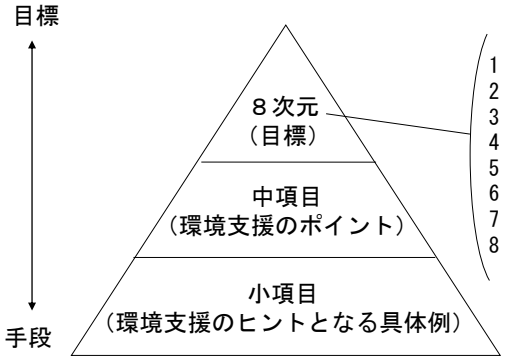
❑作業
- ◆場所別にわける
- ◆ＰＥＡＰの次元ごとに分類する

※カードを壁に掲示して、
さらに意見を募集してもいい



Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.

# 認知症高齢者への環境支援のための指針 PEAP日本版３の次元と項目




| | | 中項目 |
|---|---|---|
| 1 | 見当識への支援 | (4) |
| 2 | 機能的な能力への支援 | (3) |
| 3 | 環境における刺激の質と調整 | (8) |
| 4 | 安全と安心への支援 | (2) |
| 5 | 生活の継続性への支援 | (4) |
| 6 | 自己選択への支援 | (4) |
| 7 | プライバシーの確保 | (3) |
| 8 | ふれあいの促進 | (5) |

http://www.kankyozukuri.com から全文ダウンロード

出典：児玉桂子他編著：PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル、中央法規、2010、13頁

Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.



# ４．キャプションカードをPEAPの視点で評価する
## ―課題をPEAPの視点で幅広くとらえる（事例１：タンス）

### 事例１のプロフィール

- ❑おしゃれが好きで、スカーフやカチューシャを毎日着用
- ❑食事以外はほとんどリクライニングで寛がれるか臥床して過ごされる

### PEAP評価の根拠

| | |
|---|---|
| 見当識 | どこに何が入っているのかわかりにくい |
| 機能 | 引出しが重くて出しにくい |
| 刺激 | タンスの上に何もないので色彩に乏しい |
| 継続性 | 使ってきた愛着のある家具ではない<br>おしゃれを楽しむ生活習慣が継続できない |
| 選択 | 自分で洋服を選べない |

Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.

# Aさんを取り巻く環境全体を評価（リビング・居室）

| キャプションカード | ○に該当 | ×に該当 | ？！に該当 | 各次元の総合評価 |
|---|---|---|---|---|
| I.見通しへの支援<br>（入居者の見当識を物理的・社会的・時間的に支援） | | | | ・自分の居室という認識がしづらい。 |
| II.機能的な自分への支援<br>（日常生活における自立活動を維持・回復する） | | | | ・物がなく、自分の力を発揮できない。 |
| III.刺激の安と調整<br>（入居者の適応を助ける刺激、ストレスにならない刺激の質を確保、過剰にならないように調整する） | | | | ・和の雰囲気があるインテリアやや物が置かれている<br>・居室は殺風景で楽しみがない。 |
| IV.安全と安心の結果<br>（安全を脅かすものを最小にして安心を最大に） | | | | ・集団の中に居る安心感を持ちながらも、自分のペースでくつろげる。 |
| V.生活の結果性<br>（個人が慣れ親しんだ環境と生活様式の支援） | | | | ・使い慣れた物や見て楽しくなる物「自分らしさ」がない。 |
| VI.自己選択の支援<br>（物理的環境で他者の方針によって入居者の自己選択を保る） | | | | ・リビングではその日の気分に応じた居場所や過ごし方が選べる。<br>・居室ではお洒落がしたいのに自分で選べない。 |
| VII.プライバシーの結果<br>（入居者がひとりになったり他との交流が選択できる） | | | | ・ゆっくりとした自分の空間が保てているが、殺風景ではないか？入居者本位になっているか？ |
| VIII.ふれあいの結果<br>（社会的な接触と交流の促進） | | | | ・レクリエーションをしたり他の方との時間を持つことができる。 |
| その他<br>（上記に当てはまらないもの） | | | | |
| 総合評価<br>（課題） | （居室）慣れ親しんだ物が無く、自分の部屋でくつろいだ気持ちがしない。<br>（居室）おしゃれがしたいのに、自分で服を選べない。 | | | |

キャプションカードをそのまま掲示。
眺めて意見交換

①写真をPEAPの次元にそって整理
②キャプション内容を要約して記入

12

Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.



# ５．キャプション評価法の利点

- ❑長所と課題を目に見える形に→　可視化
- ❑各人が長所と課題を見つけてくる→参加型手法
- ❑各自の感じたことを自由に表現する→定型自由記述
- ❑カードを見ながら活発なコミュニケーション→課題の共有

写真とキャプションを1枚のカードに

利用者の参加も可能

13

Copyright(C)ケアと環境研究会. All rights reserved.

全国個室ユニット型施設推進協議会キャプション評価大会20211018

# 認知症高齢者への環境支援指針PEAP日本版3

## ―認知症のある高齢者へのケアと環境の関りを理解する―

児玉桂子
日本社会事業大学名誉教授
ケアと環境研究会代表

Copyright(C) ケアと環境研究会. All rights reserved.

0



# 認知症高齢者への環境支援のための指針（PEAP日本版３）

PEAPとは・・？

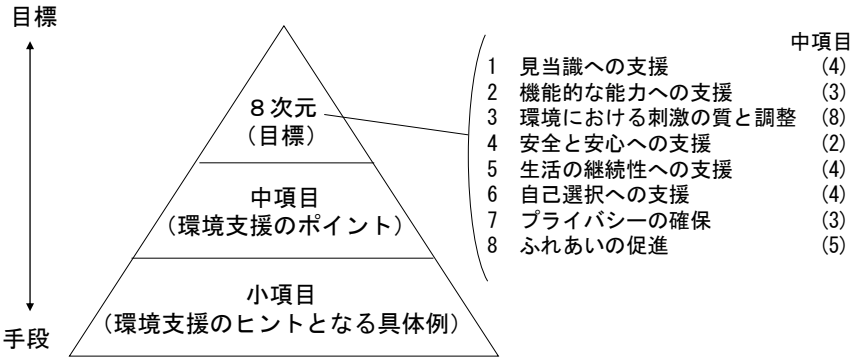
Professional Environmental Assessment Protocol

認知症高齢者の自立やライフスタイルの継続などのニーズに焦点を当て、それにふさわしい環境を、施設の物理的環境をはじめとして、社会的・運営的環境など幅広い要素を考慮して実践するための指針

Copyright(C) ケアと環境研究会. All rights reserved.

1

# 認知症高齢者への環境支援のための指針 PEAP日本版３の次元と項目




| | | 中項目 |
|---|---|---|
| 1 | 見当識への支援 | (4) |
| 2 | 機能的な能力への支援 | (3) |
| 3 | 環境における刺激の質と調整 | (8) |
| 4 | 安全と安心への支援 | (2) |
| 5 | 生活の継続性への支援 | (4) |
| 6 | 自己選択への支援 | (4) |
| 7 | プライバシーの確保 | (3) |
| 8 | ふれあいの促進 | (5) |

http://www.kankyozukuri.com から全文ダウンロード

出典：児玉桂子他編著：PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル、中央法規、2010、13頁

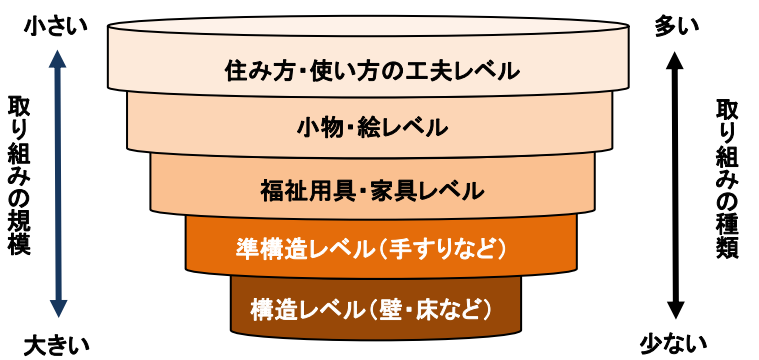
Copyright(C) ケアと環境研究会. All rights reserved.





# 認知症高齢者への環境支援のための指針 PEAP日本版３の環境要素

＊環境支援の具体的な項目は、施設の建築的・固定的要素、改造可能な準固定的要素、小物など固定化されない要素、暮らし方・関わり方から構成される




Copyright(C) ケアと環境研究会. All rights reserved.

# １．見当識への支援

定義：空間・時間・そこで行われていることを分かりやすくする環境支援。

## １－１　環境における情報の活用

目印・図柄・色などで
分かりやすくする工夫

## １－２　時間・空間の認知に対する支援

カレンダーや時計のみでなく
暮らしのリズムを伝える工夫

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.





# １．見当識への支援

## １－３　空間や居場所のわかりやすさ

赤の取っ手やトイレマーク
で分かりやすく

## １－４　視界の確保

自分の生活エリアや
職員が見えることで安心できる

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.

# ２．機能的な能力への支援

**定義：日常生活動作や日常生活の自立を支え、さらに継続していくための環境支援**

## ２－１　セルフケアの自立を高めるための支援

自動水栓は使い方が分からない認知症の人が多い。使い方を書いたラベルで自分で出来る人が増えた

## ２－２　食事が自立できるための支援

家庭のような食器を用いて
食欲がわくような雰囲気づくり

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.





# ２．機能的な能力への支援

## ２－３　調理・洗濯・買い物などの活動の支援

ガス台は壁側に配置
火の安全も配慮して調理に参加

手の届く洗濯物干し
生活に役割をもたらす

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.

# 3．環境における刺激の質と調整

定義：適応や感性に望ましい良質の環境の刺激を提供する。
また、環境の刺激が混乱やストレスを招かないように調整する。

a　刺激の質

a-1　意味のある良質な音の提供

調理の音で食事の時間だと分かる

a-2　視覚的刺激による環境への適応

やわらかい照明やインテリア（デンマーク）

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.





# 3．環境における刺激の質と調整

a　刺激の質

a-3　香りによる感性への働きかけ

ベランダに鉢植えを置き、寝たきりの方も花の香りを楽しめる

a-4　柔らかな素材の提供

住宅のような柔らかい素材を施設のリビングに使う

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.

# 3. 環境における刺激の質と調整

b 刺激の調整

b-1　生活の妨げとなる騒音の調整

家庭にはないキャスターの金属音や
アラーム音は落ち着かなくする

b-2　不適切な視覚的刺激の調整

すだれでまぶしさを調整

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.





# 4. 安全と安心への配慮

定義：安全を脅かすものを最小限に留めるとともに、認知症の人や介護者の安心を最大限に高める環境支援

4－1

入居者の見守りのしやすさ

少人数の生活単位は見守りがしやすい。高齢者にとっても職員の姿が見え安心

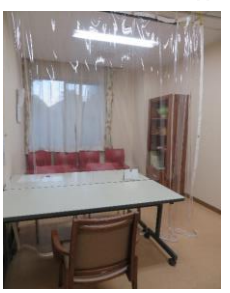
4－2

安全な日常生活の確保

シャワーチェアや滑らない床材で事故を防ぐ

4－2

安全な日常生活の確保



コロナ感染対策をした面会室

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.

# ５．生活の継続性への支援

定義：慣れ親しんだ環境とライフスタイルを継続するための環境支援。
生活歴のアセスメントとセットで活用することが効果的

## ５－１慣れ親しんだ行動様式とライフスタイルの継続性への支援

デスクや映画スターの写真を取り入れ、
自分の好みを表現

## ５－２　その人らしさの表現

104歳の人生が凝縮した居室

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.





# ５. 生活の継続性への支援

## ５－３　家庭的な環境づくり

施設用ではなく家庭用の家具を選択
居心地の良い環境では認知症の人も
落ち着き、転倒防止にも有効

## ５－４　地域とのつながり

地域の生活を感じられる
地域の習慣や行事を取り入れる
商店など地域の資源を活用する

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.

# ６．自己選択への支援

**定義：認知症の人の自己選択が図られるような環境支援**

**６－１　入居者への柔軟な対応**

ユニットごとに浴室を設けて、
入浴へ柔軟な対応が可能

**６－２　空間や居場所の選択**

多様な居場所の選択が可能

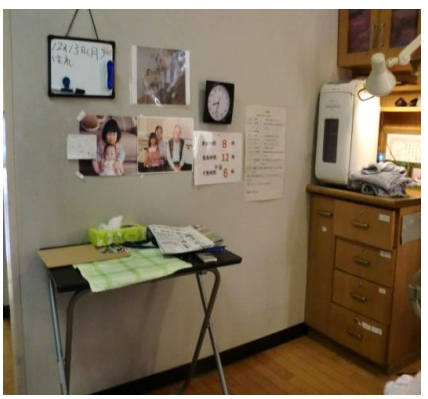
Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.





# ６．自己選択への支援

**６－３過ごし方を選択できる**



目に入る位置に時計や予定表を表示して、
自分で過ごし方を選べる

**６－４　居室の温度や明るさを選択できる**

カーテンや照明などを調整できる

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.

# 7．プライバシーの確保

**定義：認知症の人が、ニーズに応じてひとりになれたり、他との交流が選択的に図れるような環境支援。**

## ７－１　プライバシーに関する施設の方針

個室入口の扉の開閉は
入居者の希望を尊重する

## ７－２　居室におけるプライバシーの確保

パーテーションで視線のプライバシーは守れるが、音や臭いのプライバシーは防げない

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.





# 7．プライバシーの確保

## ７－３　プライバシー確保のための空間の選択

小グループで過ごせる居場所の確保も
プライバシー

ひとりの居場所を確保

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.

# 8．ふれあいの促進

**定義：認知症の人の社会的接触と相互交流の促進を図る環境支援**

## 8－1　ふれあいを引き出す空間の提供

気軽に立ち寄れる場の確保

## 8－2　ふれあいを引き出す家具やその配置

座りたくなるいすやテーブルの配置
（デンマーク）

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.





# 8．ふれあいの促進

## 8－3　ふれあいのきっかけとなる小道具の提供

ふれあいのきっかけとなる、入居者の関心を引く小道具を用意する

## 8－4　社会生活を支える

施設内売店や喫茶は、客として利用・作品展示・店の手伝い等多様な機会を提供する

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.

# 8. ふれあいの促進

## 8－4　社会生活を支える

特養にある子供からお年寄りまで集まれる地域の居場所（練馬区社会福祉事業団HPより）

## 8－5　家族・友人とのきづなを保つ

コロナ禍でもオンラインの工夫で家族とのつながりが保たれた（全国個室ユニット型施設推進協議会HPより）

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.





# PEAP日本版３の活用による環境支援の特徴

1)　パーソン・センタード・ケアと同様に利用者主体の視点に立つ
2)　環境支援は大掛かりなものばかりではない。身近な環境づくりから実践可能
3)　認知症高齢者への環境支援は物理的環境だけでなく、ケアや施設やホームの運営方針も含まれたものである
4)　環境支援の目標について、職員間で共有し、実際に取り組むうえでの手がかりとなる
5)　環境支援を通じて、認知症ケアに対する意識が変化して、ケアの質が向上する
6)　施設の特性に合わせた工夫で柔軟に活用できる

Copyright(C)　ケアと環境研究会. All rights reserved.